平成１６年度学術創成研究費中間評価結果

研究課題名	Ｐ型イオンポンプによる能動輸送機構の構造的解明	研究代表者名	豊島　近（東京大学・分子細胞生物学研究所・教授）

１　研究を推進する必要性について

推薦の趣旨に照らし、採択時以降の関連研究分野の学術動向を踏まえた上で引き続き研究を推進する必要性は高いか

(ア) 高い
イ．やや高い
ウ．やや低い
エ．低い

コメント：世界のトップレベルの研究であり、予定以上に進んでいる。このまま推進する必要性は高い。

２　研究の進捗状況について

（１）当初の研究目的に沿って、着実に研究が進展しているか

(ア) 予定以上に進展している
イ．概ね予定どおり進展している
ウ．やや遅れている
エ．遅れている

コメント：世界的には競争は非常に激しいが、研究は予定以上に進んでいると言えるだろう。

（２）今後の研究推進上、問題となる点はないか

ア．研究経費
イ．設　　備
(ウ) 組　　織
エ．そ の 他

コメント：遺伝子発現、サンプルの安定供給、コンピューターシミュレーション等の面で、マンパワーが不足しているように思われる。全般的な強化の必要があろう。

３　これまでの研究成果について

当初の研究目的に照らして、現時点で期待された成果をあげているか (又はあげつつあるか)

(ア) 期待以上の成果をあげている
イ．概ね期待された成果をあげている
ウ．期待された成果をあげつつある
エ．期待された成果はあがっていない

コメント：分解能を 2.3Å まで上げ、水分子の分布まで決めてきており、期待以上の成果が上がってきている。

4　研究組織について

研究者相互に有機的に連携が保たれ、活発な研究活動が展開される研究組織となっているか

(ア) 有機的に連携が保たれている
イ．あまり有機的に連携が保たれていない
ウ．その他

コメント：研究者間の連携はよく保たれていると感じられるが、全般的にマンパワーの強化を図り、パワーアップの必要があろう。

5　研究経費の使用状況について

研究経費は効率的・効果的に使用されているか

(ア) 効率的・効果的に使用されている
イ．あまり効率的・効果的に使用されていない
ウ．その他

コメント：研究費は効率的に使用されていると思われるが、マンパワー強化にもう少し割かれるべきだと考える。

[研究課題の総合的な評価]

区分	評価基準	ﾁｪｯｸ欄
A	現行のまま推進すればよい	○
B	一層の努力が必要である	
C	研究経費の減額又は研究の中止が適当である	